

A diagonal split image. The left side shows a close-up of two business professionals in blue suits sitting at a desk, reviewing documents and a tablet. The right side is a light blue background with a faint city skyline silhouette.

指定クロスカレンシー取引仲介者 (ACCD) を介した現地通貨決済 (LCS)協力

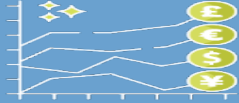
LCS: Local Currency Settlement
ACCD: Appointed Cross Currency Dealer

インドネシア銀行
国際部



ルピア為替レートは世界的な混乱に対して脆弱で不安定になる

“TUNA”: Turbulent, Uncertainty, Novel, Ambiguit
(乱高下、不確実、新奇、曖昧)



グローバル金融市場の不安定さ

インドネシアを含む国際貿易で使用される通貨は米ドルが支配的である

アジア地域において各国の経済規模や貿易量が拡大し続けている

国際貿易において現地通貨の使用が少ない

リスク

- 金融市場が遅れており「リスク資産」であるインドネシアは、グローバルショックに対して脆弱
- グローバルショックは、金融システムとマクロ経済の安定を脅かし、外部脆弱性を高める

現地通貨決済(LCS) *
イニシアティブ

現地通貨の使用を促進することで、米ドル (USD)への依存を減らす

為替レートの安定を促進

* 二国間貿易や直接投資取引を現地通貨を使って決済するプロセス



1. 背景

インドネシアの貿易取引の多くで米ドルが使われている

しかし、現地通貨の利用は非常に限られている。インドネシアの輸出の90%以上、輸入の80%以上で米ドルが使われている

インドネシアの貿易取引において使用されている通貨の割合(2016-2020年の平均)

輸出			
順位	通貨	額 (10億USD)	割合
1	USD	155,18	93,95%
2	IDR	2,21	1,34%
3	EUR	1,77	1,07%
4	JPY	1,60	0,97%
5	SGD	1,37	0,83%
6	CNY	0,98	0,59%
7	GBP	0,14	0,08%
8	MYR	0,14	0,08%
9	AUD	0,14	0,08%
10	THB	0,07	0,04%
合計		165,17	

輸入			
順位	通貨	額 (10億USD)	割合
1	USD	133,98	83,79%
2	EUR	7,03	4,40%
3	JPY	5,66	3,54%
4	IDR	4,97	3,11%
5	SGD	2,56	1,60%
6	CNY	2,26	1,41%
7	AUD	0,79	0,49%
8	THB	0,54	0,34%
9	MYR	0,49	0,31%
10	GBP	0,46	0,29%
Total		159,90	

出所: インドネシア銀行、インドネシア金融及び外部統計 (SEKI)



LCSイニシアティブが目指しているのは、国際取引決済で現地通貨の利用を拡大すること

指定クロスカレンシー取引仲介者(ACCD)を介したLCSの主な特徴



LCS -ACCD枠組みの3つの特徴:

- 1 柔軟な外国為替管理 (FEA)
- 2 監督・モニタリングのメカニズム
- 3 指定クロスカレンシー取引仲介者(ACCD)

- 中央銀行／当局は、LCSを橋渡しするACCDに指定された銀行に対し、外国為替取引規制を緩和し柔軟性を持たせる→権限当局の役割
- 報告、サーベイランス、銀行と中央銀行／当局で情報共有するメカニズムにより、中央銀行が定めた条件をACCDが順守していることを確保する
- インドネシア銀行 (BI) と中央銀行／当局は、現地通貨による取引決済を支援する金融サービスを提供するため、各国で複数の銀行を指定する。

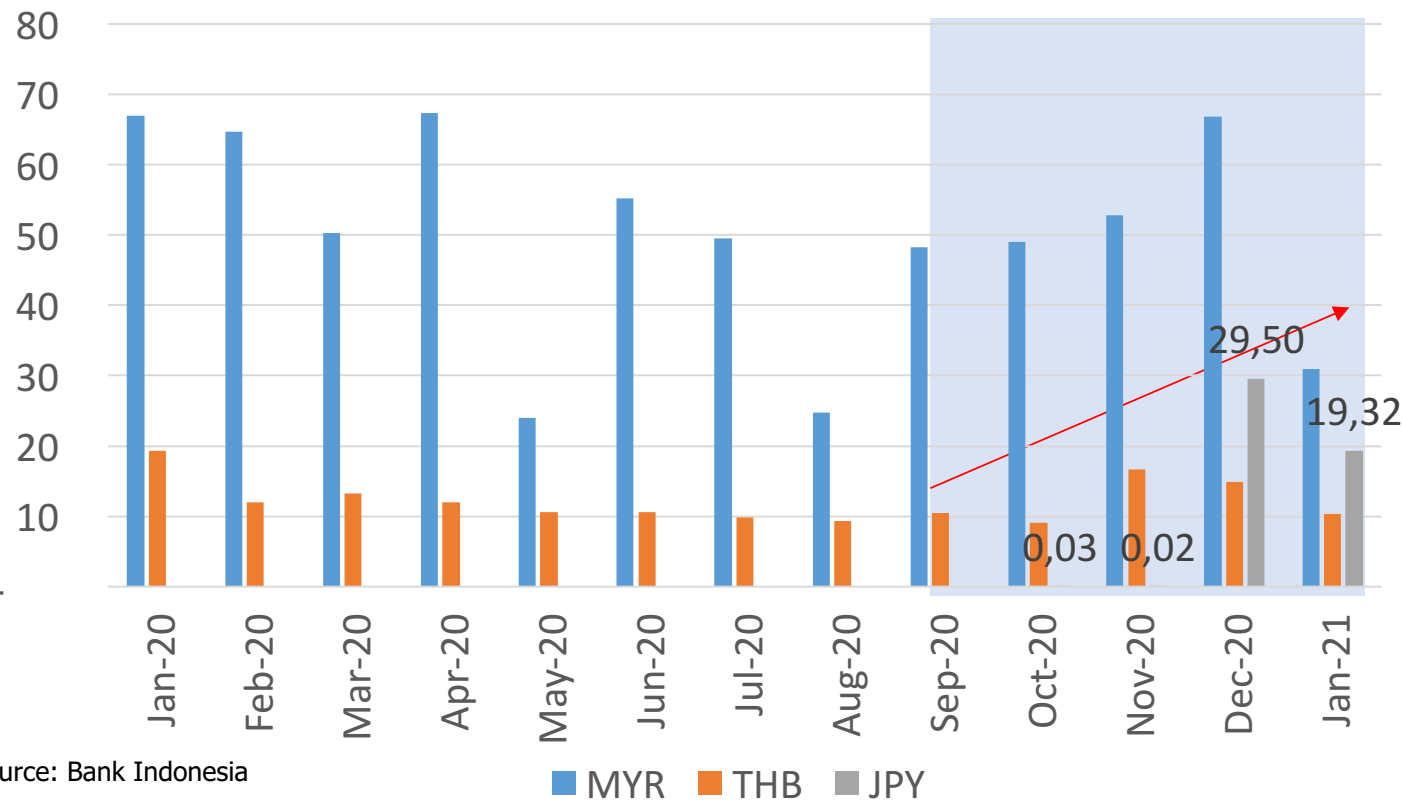
備考:

- ルピアは国際化に対応していないため、オフショアで取引できない
- LCSでは、ルピアはオフショアで取引できる (例外的措置) が、当局による監督を受ける→当局は、特定の取引のために限定的に外国為替取引規制を緩和するが、厳重な監督のもと当局の指定を受けた銀行 (ACCD) のみが橋渡し業務ができる。

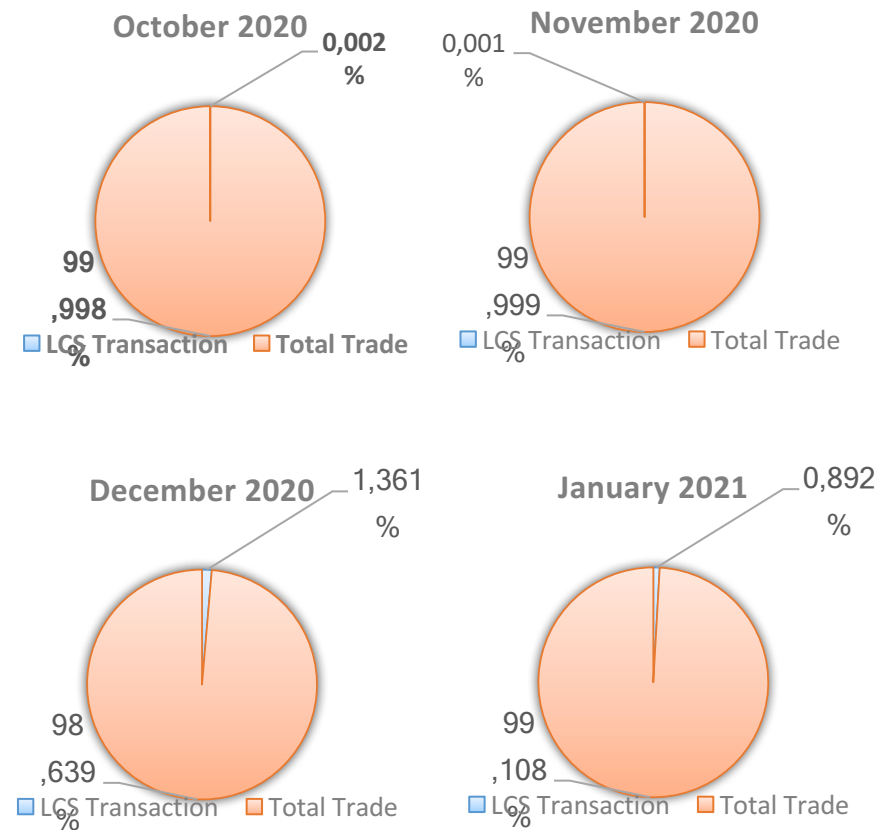
インドネシアにおけるLCS-ACCD取引は伸びてきてはいるものの、まだ限定的である...

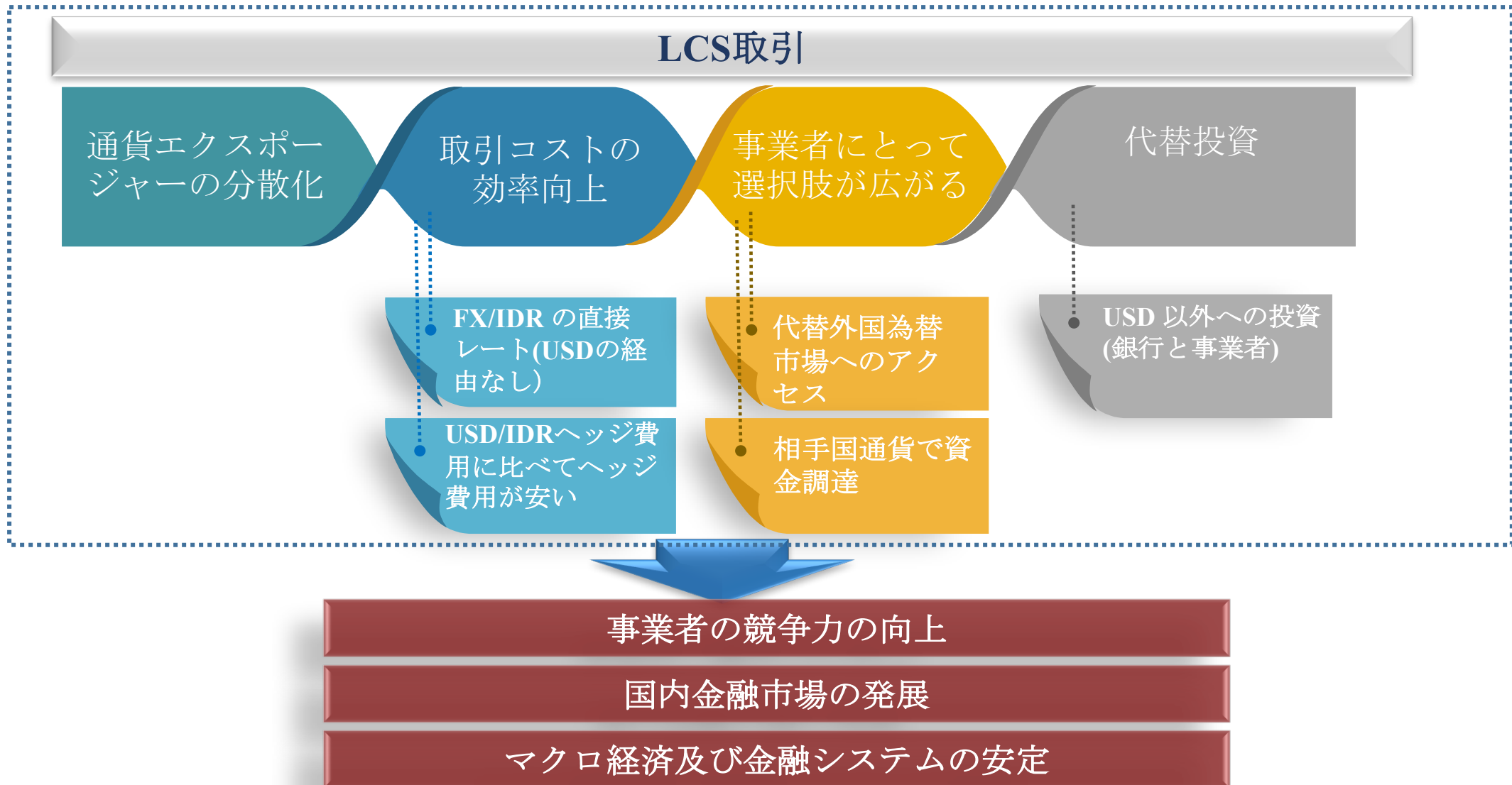
- 2020年10月から2021年1月までに、インドネシア-日本LCSの取引総額は、合計25回の取引で、4,880万米ドルに達した
- LCS取引の割合は、2020年10月の0.002%から2021年1月の0.892%へと月を追うごとに増加しているが、二国間貿易全体に占める割合はまだ比較的低い

インドネシアにおけるLCS取引



Source: Bank Indonesia





1

日本でIDRが使える

- 貿易や直接投資、所得移転を行うために、日本にルピアを送金し取引に使用できる。
- 事業者は、日本のACCD銀行にルピア口座を開設できる
- 日本でJPY/IDRの直接レート表示及び直接取引ができる

2

取引の効率性

- JPY/IDRの交換費用がより安くなると思われる。直接レート表示が使えるため、USDのクロスレートを経ないで、JPY/IDRの直接取引ができるからである。
- USDへのフォワード又はヘッジング・プレミアムに比べて、それらのプレミアム費用を安くできるため、より効率的な費用でリスク・エクスポージャーをヘッジできる

3

選択肢としてのIDR建て金融商品

- 輸出／直接投資の資金調達がルピアで可能である
- ルピア建てヘッジング商品の提供
- ルピア建て投資商品の提供

4

通貨エクスポージャーの分散化

事業者はIDRで必要な支払いができるので、取引決済で使用する通貨エクスポージャーを分散できる

LCS枠組みの推進は、**国家経済回復プログラム**を促進する
インドネシア銀行のイニシアティブの一つである。



事業者にはIDRまたはJPYで取引決済を行うよう勧めていく。現地通貨の使用を阻害する政策はない→**輸出代金をUSDで受取らなければならない必然性はなく、IDRまたはJPYを使用しても税務上の処分を受けることはない。**

LCSへの関心や興味を高め、より最適な実践を拡大するため、インドネシア銀行は以下のことに取り組む:

- 日本財務省と定期的な評価を行い、LCS-ACCD枠組みを強化する
- ACCD銀行や日本財務省と連携し、ACCD銀行及び今後その顧客になる可能性のある事業者に対し、LCSを広く伝えていく



TERIMA KASIH

ありがとうございました

